

青葉の季節によせて



ともしび会

会長

高須賀フヂエ

私は最近、知人から次の様な事を聞きました。「優越感をもって障害者に対する同情、憐みを持ってはいけない。それは即相手を卑下差別する事である」とこの言葉は私の心に重く響きました。少しでも自分より弱い立場の人に同情する癖がある事に反省をしてみました。私の心中にそんな気持ちは微塵もないと言い切れるでしょうか。無意識の中その人達に差別的感情をもって接していたとすれば恐しく哀しい事です。人は皆偉大な神のもとに平等に生れて来たのです。その事をもっと真剣に考えなくてはなりません。温い手清らかな瞳、優しい心を自分をも含めた多くの人々が持ち続けて行かねばなりません。今ホームを囲む山々は青葉の季節です。一年中で緑が一番美しい時、さわやかな五月の風が入所者の皆さんの上に、すこやかな幸を運んでくれる事を念じます。

おもひやるごとく白菖蒲

ふれあい

去る五月十日母の日に、お母さんに花を贈られたそうですが、どのようなお気持ちで花束を贈られたのでしょうか？

大石敏男

母の日

そうですね、僕には六十三才の母がいます。家に居た頃は大変苦労をかけたと思います。その母に僕も人並に親孝行がしたいと思うのですが、御存知の通りの僕の体ではどうすることも出来ません。でもこの素晴らしい光の世界に生を与えてくれた母に対して、感謝の気持ち何百分の1かでも現わしたいと思い、母の日に花束を贈りました。

お母さん



敏男は私どもの長男ですが不幸にして重い障害を負って生まれました。その子がホームの皆様のお蔭で、このような素直な心の人間に成長した事を、花よりも何よりも嬉しく思いました。ありがとうございます。

「おつかれさま」

二階の道を前かがみの姿勢でバックを肩に、歩いて通勤された神野津賀子さん。六年間御苦労様でした。イヤな顔一つせず、いつも「ハイ、ハイ」ときれいな声で返事をしながら、くるくると細かいところによく気がつき、動いて下さり、皆さん喜んでいましたのに……突然の退職……これからは足を腰を充分労わり若々しく生活して下さい。時には皆の顔を見に来園される事を願いつつ……色々ありがとうございます。

めぐみ句会

- 紫陽花のぬれ色愛する二人かな 平田み
- 棕櫚の花珊瑚の色に咲きにけり 立町龍
- あめんぼうの細き足にしん強し 広瀬律
- 新緑や大正ロマンの華宵展 井上敏
- 梅雨空を確めて行くショッピング 松浦ゆ
- 出勤の寮母野あざみ抱え来し 渡辺萬
- 梅雨入りの宣言近し雲の色 池田啓
- 見事なる芍薬活けし大花瓶 大野吉
- 籐椅子に疲れあづくる日暮かな 宇佐美
- うちぬきの溢るる水や虫舞ふ 矢野一
- 五月晴風に吹かるる洗髪 渡部房
- 家鴨に撒きやる餌や初夏の池 玉井隆
- 老鷺と小窓に聞きつ目ざめけり 平石房